

解答 ③

(1) 正解 c

近年、獣医療においても終末期医療、ターミナルケアという考え方が広まってきました。

これは治療の見込みのない動物たちに対して苦痛を伴う治療や延命行為を行わず、自宅などで最後の時間を安らかに過ごしQOL、すなわち生活の質を高めようというものです。

人間の場合と同じように、最期まで辛い入院生活を続けるのではなく、残りの短い時間をできるだけ家族のもとで過ごす方が幸せであるという考えのもとで行われます。

と紹介されていたのでcが正解である。

(2) 正解 b

欧米ではキリスト教的価値観から人間は動物を管理するという意識が強いと言えます。聖書において、人間は神の形を模して造られた存在であり、またアダムは動物達を管理する役割が与えられていました。ダーウィンの進化論が始めは受け入れられなかったのも、こうした人間は特別であり、動物とは全くの別物という宗教観が原因でした。

一方日本では仏教における輪廻転生という考え方に代表されるように人間と動物をまったく別のものであると区別しない考え方が浸透していました。人間と動物を連続的なものとして受け入れていたのです。

このように、動物に対する管理意識の強い欧米では動物の命に積極的に介入する安楽死が受け入れられると言われています。一方で、そういった人間を特別視しない日本では動物の生死に人間が介入することに抵抗を感じると言われています。

とあるので、a,c,d はいずれも正しいことがわかる。よって間違っているのはbである。

(3) 正解 d

最後の最後まであきらめきれないという感情が大きな理由でしょう。また自ら愛するペットの死に加担してしまうということに対する罪の意識や良心の呵責も飼い主の決心を鈍らせます。また安楽死させたということに対する周囲の目を気にする場合もあります。

と紹介されているので a,b,c は正しい。D は飼い主が安楽死に消極的である直接的な理由とはなっていないため間違いである。

(4) 正解 d

また、カナダで行われた別の調査結果ではペットを亡くした飼い主の内、84%が安楽死は人道的な手段であると答えていました。

回復する可能性がないのであれば、徒に苦痛を長引かせるよりは終わらない苦痛から解放してあげることこそが飼い主としての思いやりある行動だと言うわけです。

と紹介されているので d が正しいことがわかる。

(5) 正解 d

また飼い主の意識の向上も長寿化に大きく貢献しています。スーパーのペットフードコーナーを覗けば飼い主たちの意識がうかがえます。ほんの30年前までは家庭の残飯を与えられているペットも珍しくはありませんでしたが、昨今のペットは品種、年齢、持病の有無などに合わせたペットフードを与えられています。飼い主がより一層健康に気を使っていることの証拠と言えるでしょう。

・・・(途中略)・・・

前述のように獣医療が発達してペットたちの寿命も伸びました。またワクチンの接種で防げる病気も増えました。

とあるので a,b,c が正しいことがわかる。d はそのようなことは一切講義で触れられていない。

(6) 正解 c

積極的安楽死と消極的安楽死の定義をしっかりと聞きとっておこう。

安楽死は積極的安楽死と消極的安楽死にわけられます。

簡単に説明すると、前者は回復する見込みがなく病気による苦痛が大きくかつ患者が望む場合に、医者が致死量の薬物を投与することで安楽死させることです。一方消極的安楽死と言うのは、患者の希望に応じて治療や延命行為を行わないことで結果として死に至らしめることです。

とあるので、cが正しい組み合わせなことがわかる。(モルヒネはただ痛みを緩和させただけであり、それによって死亡させているわけではない)。またdは本人が望んでいるかはわからないため、積極的安楽死とは言えず、ただの殺人になってしまう。

(7) 正解 a

データを聞き取っていれば簡単な問題だ。

反対に安楽死と言う手段がもたらす負の側面も触れないわけにはいきません。

2013年に行われた調査によると、アメリカでの犬の死因の第一位は安楽死であり、安楽死の原因の第一位は問題行動であることが明らかになりました。

問題行動とはすなわち、無駄吠え、噛み癖、トイレを覚えられないなどです。これらはたいていの場合、適切な躾を行うことで回避できるものです。

とあるので、第1位に問題行動、つまり「不従順」が入っていればよい。よって正解はaです。

(8) 正解 c

動物を飼う際に、自らの生活スタイルや経済状況など諸々の条件を検討することなく安易に飼い始めてしまうことがこういった社会問題の何よりの原因です。ペットは可愛いだけの存在ではなく、意志を持った一つの命です。可愛い、癒されるなどの良い側面ばかりではなく、費用が掛かることや世話を見なければいけないことをしっかりと認識することが必要です。

安楽死は動物を安楽させるための手段です。飼い主が安楽になるための手段として用いられることは本来許されざる行為です。

とあるので、講師は「飼い主側の都合による安楽死」に対して強く反対していることがうかがえる。よってcがもっとも答えとして適切と言えるだろう。

(9) 正解 a

消去法で考えよう。

- a. ペットの数が増えたことが理由ではない。ペットの質が変わったのである。
- b. そう述べられている。
- c. その通りである。
- d. やや悩むが、ペット以上の存在となることで、飼い主の責任も大きくなっていると考えられる。よって正しいと言える。

よって、aが確実に間違っていると言える。

(10) 正解 d

これも消去法で考えよう。

- a. この講義では、ペットの権利なるものは一切触れられていない。
- b. 特にターミナルケアに焦点を絞った講義ではない。
- c. 動物愛護社会を訴えている講義ではない。
- d. ベストなタイトルである。握れば拳開けは掌ということわざは、「手は握れば拳となって人を傷つけるが、開けば手のひらとなって人をなでることができる、つまりも

の価値は一樣ではない」という意味である。安楽死という手段も、善や悪ではなく、使いようだと主張した講師の主張にもっとも合うだろう。